

西中図書館 新刊オススメ本



『人新世の「資本論」』
[斎藤幸平 著]
集英社

人類の経済活動が地球に与えた影響があまりに大きいため、ノーベル化学賞受賞者のパウル・クルツェンは、地質学的に見て、地球は新たな時代に突入したと言い、それを「人新世」と名付けました。これは、人間たちの活動の痕跡が地球の表面を覆いつくした年代という意味です。

本書はマルクスの「資本論」のまったく新しい面を「発掘」して、気候危機の時代に、よりよい社会を作り出すための想像力を解放してくれるはずです。



『非正規介護職員ヨボヨボ日記』
[真山剛 著]
三五館シンシャ



『もういちど』
[島山恵 著]
新潮社



『テスカトリポカ』
[佐藤 究 著]
KADOKAWA



『彼岸花が咲く島』
[李琴峰 著]
文藝春秋

出ヶ原和紙を使って温もりある工芸技法を学ぶ ものづくり教室 ^{いっかん}一閑張り講座を開講



7月19日から8月6日まで、^{いっかん}一閑張り講座が行われ、9人の受講生が参加しました。「一閑（貫）張り」とは、竹かごに和紙や布を貼り、その上から柿渋を塗ったものをいいます。由来は諸説ありますが、「一貫目の重さにも耐えられるから」「農閑期の閑な時期に作られたから」「一閑和尚が始めたため」と言われています。和紙は繊維が長く、柿渋を塗ることで丈夫になり、また防水・防虫効果もあることから、物がなかった時代に破れたり、壊れかかったかごを再生して使い回しました。

今回で2年目となる本講座では、講師の齋藤征子さん（6町内）の指導を受けながら、壊れて自宅の物置などに眠ったままになっていたかごや行李などの竹細工をリメイクするものづくりに挑戦しました。また、出ヶ原和紙作り講座や押し花絵講座を受講した受講生もいて、自作の出ヶ原和紙や押し花を活用して作品作りに取り組んでいました。工夫を凝らした受講生の力作は10月末に開催予定のふるさとまつりで展示されます。



町民ギャラリー 出ヶ原和紙作り講座

町公民館では、地域文化を再生し、和紙の新たな可能性の発見を目的とした「出ヶ原和紙作り講座」を昨年度から開催しています。前月号に続き、本講座に参加した皆さんが自分で漉いた出ヶ原和紙を使って作成した作品を紹介します。

今日は、須藤由美子さん（2町内）の作品です。

作品によせて…

①押し花…はがきサイズの和紙に押し花を入れ、ラミネーターではさみました。



②コサージュ…

夏糸を細かく切って挟んだ和紙に、こんにやく液を塗った和紙と柿渋を塗った和紙を糸で縫い合わせてコサージュを作りました。



これからも、自分で漉いた出ヶ原和紙で色々なものづくりに挑戦したいと思います。



▲屋外でのドローン飛行体験（8月28日）



▲講師による機体の説明（7月25日）

若年層の男性を対象とした「働く男性の応援講座」では、7月25日と8月28日の2日間に、会津ドローン愛好会を講師に迎え、ドローンの飛ばし方について学習しました。

まず初日は、町公民館大ホールにおいて、ドローンを屋外で飛ばす時の事故防止やプライバシー侵害防止などの法律・規制などのルールについて講師から説明がありました。その後、講師が持参した農業散布用など大小20種類のドローンの機体やマイクロドローンでのデモフライトを見学しました。

2日目は、さゆり公園多目的広場で実際に屋外での飛行を体験しました。講師の指導を受けながら、上昇や前後左右に飛ばしたり、4カ所のパイロンを回ったりなどの操縦方法を学びました。講師からは「レベルが高く、初心者としては上手に飛ばせている」との話があり、また受講生からは「初めての体験で興奮した」「とても楽しかった」などの声が聞かれ、驚きとワクワクが連続の有意義な時間となりました。



ドローンを楽しく飛ばそう 働く男性の応援講座を開催